

令和4年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山盲学校

校長名：太田 善孝

目指す学校像・育てたい生徒像

- ・視覚に障害のある幼児児童生徒一人一人の主体的な学びを大切に、幼稚部から高等部専攻科までそれぞれの段階で求められる専門性を生かした教育を実践します。
- ・自分も他人も大切に作る心を持ち、目標に向かって主体的に取り組む幼児児童生徒を育てます。
- ・多様な職種の教職員が互いを尊重しながら、それぞれの責務を自覚し、「チーム盲学校」の一員として活力ある学校づくりに努めます。

学校評価の公表方法

学校HPに概要を公表する。
学校運営協議会等で概要を説明する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)
D	不十分である。(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	幼児児童生徒の障害の状態の多様化に対応できるよう丁寧な実態把握に基づいた授業（指導）を実践する。	C	見え方を含めた実態把握を進め、育てたい生徒像を目指した指導を進める。	個別の指導計画に基づく指導について管理職と共有（ヒアリングの実施）	A	管理職のヒアリングは6月に実施した。見え方を含めた実態把握を指導につなげることを教員と確認した。	幼児児童生徒の障害の実態把握についてはそれぞれのブロックで研修を行った。指導案の様式を見直し、指導と評価の一体化を図ったが、日頃の指導にはまだ生かせていない。視覚障害に加え他の障害を併せ有する幼児児童生徒が増える中、重複障害を対象とした教育課程の見直しを進めており、今後は新しい教育課程に基づいた系統的な授業づくりを進めていく。
			実態把握に基づく授業づくりをテーマにブロック研修を実施し、実践を高め合う。	ブロック研修を毎月実施 研修内容の見える化と校内での共有	B	ブロック研修は毎月行ったが、研修内容の見える化には至っていない。校内での共有も課題。	
			全員が公開授業を実施する。	授業づくり研修に基づき、授業実践を工夫 効果的な実施方法の検討	B	学びの丘指導主事派遣事業を活用し、授業づくり研修及び研究授業を実施。校内での公開授業は実施後の振り返りを充実させる必要がある。	
2	盲学校の教職員としての自覚を高め、単一障害、重複障害、理療専門部それぞれの分野における専門性の維持・向上に努める。	C	学習指導員や視覚支援センターの校内支援、外部講師による研修を効果的に実施し、視覚支援教育の専門性向上を図る。	外部講師による研修及び相談支援を10回以上実施 校内でのテーマ別研修会を毎月2回以上実施 研修内容の見える化	B	外部講師による研修等を年間回実施した。学習指導員や校内の教員による研修会を回実施した。また、全国の盲学校への視察や研修会への参加も実施した。	盲学校での経験年数の浅い教員が増えている中で、校内にある専門性を継承していく取組が必要である。次年度は盲学校に赴任して3年以内の教員を対象とし、経験の長い教員を講師とした研修プログラムを実施する予定である。
			県教育委員会が作成する視覚障害教育ハンドブックの執筆に参加する。	ハンドブックの執筆と完成後と活用計画の作成	D	ハンドブックの執筆に至らなかった。	
			国家試験の合格率100%を目指す。	国家試験受験予定者2名の合格	A	国家試験合格をめざし、指導を徹底した。2名受検2名合格	
3	学校運営協議会や生徒会、育友会等の組織を活用し、地域とともにある学校づくりを進める。	C	生徒会を中心に生徒が外部機関と連携した活動に参加する。	生徒会役員の各種活動への参加と振り返りの実施 JRと協働した点字ブロック啓発活動の実施	A	生徒会活動では子ども食堂への寄付活動が外部からも評価された。JRと連携した点字ブロックキャンペーンやラジオ番組への出演など、学校外で生徒が活躍できる機会を設定できた。	学校運営協議会より啓発活動について意見をいただき、情報発信を強化するとともに、自校のHPを充実した。育友会と連携し、盲学校カレンダーを作成した。進路先や眼科医等関係機関に配付し、啓発活動を進めている。外部講師による授業は効果的であるが、計画的に実施することに課題がある。今後は、学校のある地域と連携した取組を進めていきたい。
			ゲストティーチャーや学校支援ボランティアを招聘し、充実した授業を計画的に実践する。	各教科等の進捗に合わせ、年間5回以上実施	A	各学部において、読み聞かせや移動博物館、安全なSNSの利用、人権学習など多くの分野のゲストティーチャーを年間10回以上招聘した	

学校関係者評価（2月7日実施）

教職員評価（アンケート評価の高い項目）

- ・教職員と事務室との連絡・調整及び訪問者や電話への対応等が適切に行われている。
- ・給食をはじめ、食に関する指導が適切に行われている。

保護者評価（アンケート評価の高い項目）

- ・明るく生き生きと学校生活や寄宿舎生活を送っている。
- ・児童生徒の健康や安全、体力づくりに関する指導が適切に行われている。

<自由記述>

- ・これからも早期教育、盲教育に力を入れて教育に取り組んでほしいと思います。
- ・いろいろな活動も大切ですが、まずは盲学校としての学びを充実させていただきたいと思っています。
- ・卒業後の進路についてもう少し多くの職種があると良いなと思います。

外部評価

- ・盲学校の取組が様々な関係機関、地域と連携して行われていることや今後さらに充実した活動を目指されていることが分かりました。
- ・HP等からも時節ごとの活動（マンスリータイムズ）や学校評価等が分かる（オープンにされている）。